



**Juntos!! 中南米対日理解促進交流プログラム報告**  
**FEALAC グループ**  
**テーマ：日本のロボット技術**

**1. プログラム概要**

Juntos!! 中南米対日理解促進交流プログラムの一環として、ブラジルより高校生、大学生及び社会人6名が、3月21日～3月29日（8泊9日）の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史、教育及び外交政策などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。滞在中は東京のみならず、地方訪問等を通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

**2. 参加国・人数**

ブラジル6名（IEEE 中南米ロボットコンテストにおける FEALAC 賞受賞チーム：高校生、大学生、社会人）

**3. 訪問地**

東京都、宮城県、埼玉県

**4. 日程**

3月21日（火）

成田国際空港より入国

3月22日（水）

来日オリエンテーション

東京工業大学 名誉教授 清水優史氏講演

「自由な発想の大切さ」

外務省中南米局中米カリブ課 佐藤慎市首席事務官表敬

3月23日（木）

東京工業大学工学院システム制御系 大学交流、山北昌毅准教授訪問（大岡山キャンパス）

秋葉原視察

3月24日（金）

都内から宮城県へ移動（新幹線）

みやぎ復興パーク視察

和太鼓体験

ホームステイ対面式

ホームステイ

3月25日(土)

ホームステイ

3月26日(日)

宮城県から都内へ移動(新幹線)

日本科学未来館視察

お台場視察

3月27日(月)

皇居視察

浅草視察

千葉工業大学東京スカイツリータウンキャンパス視察

3月28日(火)

東京電機大学理工学部大学交流、大西謙吾准教授訪問(埼玉鳩山キャンパス)

ワークショップ

3月29日(水)

報告会

成田国際空港より出国

## 5. プログラム記録写真

	
3/22 東京工業大学 名誉教授 清水優史氏 講演	3/24 みやぎ復興パーク視察



3/24 和太鼓体験



3/25 ホームステイ



3/26 日本科学未来館視察



3/27 千葉工業大学東京スカイツリータウンキャンパス視察



3/28 東京電機大学理工学部 大学交流



3/29 報告会

## 6. 参加者の感想（抜粋）

### ◆ ブラジル 学生

講義は内容がとても豊かで、聞いている私たちとのやりとりを重視していて、講義の目的がとてもよく伝わるものでした。内容は簡潔に説明されていて、テクノロジー研究の様々な分野への興味が増しました。

学校交流では、日本では施設や技術に非常に多くの投資がされていることがわかりました。日本はそれによって、世界におけるテクノロジーのお手本になれたのだと思います。

日本では、企業が協力して利益を得ようとしているのだと思いました。この良い例が、ソニーが土

地を提供してつくられたみやぎ復興パークだと思えます。

ホームステイは私にとって、これまで経験したことのなかで最も良いことの一つとなりました。日本の伝統的な家族と直接触れ合い、日本人の習慣から学ぶことは、とてもためになりました。私の印象はこれ以上ないほどよいものでした。

#### ◆ ブラジル 学生

有名な大学の先生による講義はとても内容豊かで刺激的でした。

日本の大学で研究をしている学生のグループを訪問し話をすることは、非常に興味深いことでした。これによって、新しいプロジェクトやテクノロジーが開発されている様子を知ることができました。

民間企業も政府機関もとてもきちんと組織されていると思えました。津波の後、わずかな時間で地元企業がみやぎ復興パークのハイテクな施設で復興できていました。

日本の家族と一緒に学び生活できることはとても興味深いことでした。文化や習慣はかけ離れていますが、日本人たちはとても思いやりがあり、とても居心地がよかったです。

#### ◆ ブラジル 学生

講義はとてもよく、さまざまな分野で私の知識を増やしてくれました。

学校交流では、生徒自身によって行われたいくつもの興味深いプロジェクトを見ることができました。

みやぎ復興パークは、企業が他の企業の復興のために場所を提供するという、多企業間の協力の素晴らしい例でした。

ホームステイは本当の日本の文化を肌で感じるととても素晴らしい経験になりました。

日本はとても安全できちんとした国のひとつです。

### 7. 受入れ側の感想

#### ◆ 学生①

研究室を見学している時、訪日団からの質問が専門的で鋭いのに驚きました。

#### ◆ 学生②

英語で発表したのも、ポルトガル語しかわからない学生にメンバーが英—ポの通訳をしたことによって、交流が深まったように思います。



#### ◆ 教師①

常に真面目に取り組む姿勢が素晴らしいと感じ、質問なども的を射ていて感心しました。

#### ◆ 教師②

今回の訪問を機に国際センターで受け入れる留学生の範囲を広げていきたいです。

## 8. 参加者の対外発信

	
<p>・新幹線！</p>	<p>・秋葉原めぐり！</p>

## 9. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

<p style="text-align: center;"><b>PLAN DE ACCIÓN</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>RED_ACADEMICA</b> sobre estudios asiáticos en general y cuyo contenido sustantivo inicial proponemos sea Japón.             <ul style="list-style-type: none"> <li>- Inicio: marzo 2017</li> <li>- Modalidad: virtual, web (wordpress)</li> <li>- Definir objetivo: misión, visión, objetivos</li> <li>- Actividades:                 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cursos virtuales en convenio con otras instituciones</li> <li>• Investigación colaborativa sobre la presencia de temas asiáticos en la currícula universitaria en LAC.</li> <li>• Seminario itinerante con académicos japoneses que viajen a LAC y diserten en universidades y think tanks, con un financiamiento compartido.</li> <li>• Compartir información periódica (a través de newsletters) que nos mantenga actualizados sobre temas relevantes referidos a la situación del Asia y su relación con LAC, así como información referida a cursos y programas cortos que podamos difundir y/o apoyar en los procesos de reclutamiento.</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>• <b>CLUB DE EX BECARIOS:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Generar un espacio de encuentro con todos los becarios, donde cada dos a tres años viajen a Japón (a definir condiciones y obligaciones), a fin de generar una masa crítica y una red de colaboración mutua en diferentes temáticas.</li> <li>- Organizar encuentros informativos sobre Japón y la región de manera semestral donde se inviten a expertos locales de cada país.</li> </ul> </li> </ul>	
<p>(概要) アクション・プランの発表</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. レシフェ市教育局への帰国報告（レシフェ市教育長にアポをとり、訪日の成果について報告する）</li> <li>2. レシフェ市の公立学校教員との情報共有（市内の公立学校の教員、主に理科系の教員に訪日の成果について報告する）</li> <li>3. SNSを使った情報発信（SNSを利用し若者層に向けて直接情報を発信する。帰国後10月くらいまでの間に集中的に発信）</li> </ol>	